



演習林でのモニタリング調査+災害調査

森林水文学



ぬたの谷量水堰堤での水文観測 (1987年から継続・森林環境砂防学)

治山砂防学



岩検ハンマーでもろさを調査

治山砂防学



豪雨による崩壊土砂の動きを調査

普段の森を知る

自然災害が発生する過程を考えるには、普段からのモニタリングが重要です。森には様々な顔があり季節変化や成長・衰退のなかで持続しています。さらに、日々の雨量・湧水・溪流の流量や、落葉落枝や土壌状態、霜柱など、樹木群だけでなく、森林環境を形づくる様々な要素を常に観察して季節変化も含めた一般的な姿を知っておくこと、つまり、「普段の森の姿＝動きかた」を知ってこそ異常だと気づくことができるのです。また、ゆるやかな土砂や地盤の動きの変化を捉えることで、長期的な災害発生の可能性や安定性について予測・評価できるようになります。



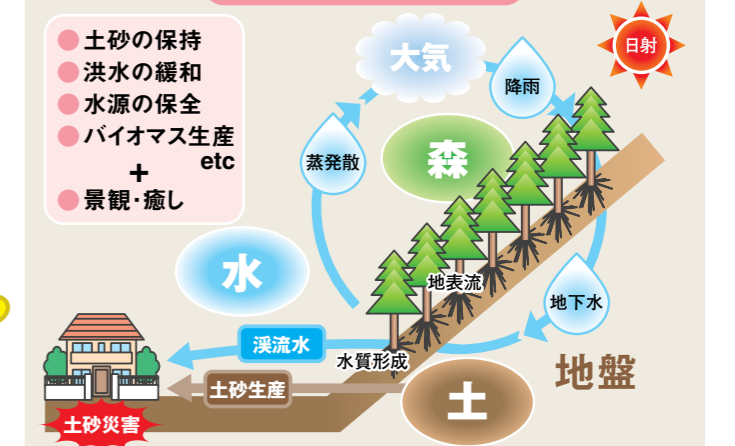
虫さされや道迷いの防止など安全のために、山では明るい服で身をつつもう

【沼本先生の調査基本セット!】

森の変化に気づくこと

長期的な視点で見ると、日本列島という脆弱で変化しやすい地盤の上に生活する私達にとって災害は常に身近に存在するものであり、いつ大きな災害に見舞われるかわかりません。災害は、日本列島を覆っている山や森で発生しているのです。多くの人は被災地を見て、自分たちの生活域にある河川の改修などを期待しますが、様々な機能を持つ森林の変化を、生活者はもちろん様々な立場の人が見るのが重要なのです。山や森が教えてくれることに気づく・気づけることが大切です。

森林の多面的機能



特集
動く

森が教えてくれること
動く大地、変わる森、流す溪



三重大学大学院生物資源学研究所 附属教育研究施設 附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター 附属施設演習林(平倉演習林)次長・准教授 沼本 晋也 Numamoto, Shinya [URL] http://hirakura.bio.mie-u.ac.jp/

東俣谷の溪流に滝をつくる岩盤地帯で

三重大学附属施設演習林では、雲出川※の最上流地帯を構成する東西約4km南北約1.5kmの森です。日々研究者や学者が調査・実習を行っています。



演習林の歴史

1925年 2月	三重高等農林学校に附属演習林を設置。
1944年 4月	三重農林専門学校附属演習林と改称。
1949年 5月	国立学校設置法の公布により、三重大学農学部附属演習林と改称。
1987年10月	農学部、水産学部の統合改組により、生物資源学部附属演習林と改称。



切っても切れない森との関係

国土の約7割が森に覆われた日本では、森は生活の場であり、また畏敬の対象でもあり、古来より日本人は森にささえられて生活してきました。しかし、エネルギー資源の変遷や経済・社会状況の変化から手入れ不足の森が増え、劣化や荒廃を心配する声もあります。一方で、近年の大きな土砂災害は、一見豊かな森に覆われた山地斜面や河川で起こっていることが多く、極端気象も珍しくない今、まさに森を見つめるべき時代かもしれません。